

平成22年度 京都府立東舞鶴高等学校浮島分校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（実施段階）

平成23年3月

学校経営方針（中期経営目標）	昨年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>1 基礎・基本を習得させるきめ細かな学習指導を充実させる。</p> <p>2 生徒とのコミュニケーションを大切にしたい生徒指導の充実を図る。</p> <p>3 生徒一人ひとりの個性を尊重した教育活動を推進する。</p> <p>4 家庭・地域から信頼される学校づくりを推進する。</p>	<p>(成果)</p> <p>1 生徒とのコミュニケーション（対話）を大切にすることで、問題行動等も減少した。</p> <p>2 きめ細かな進路指導により、昨年度に引続き学校紹介による就職内定率がアップした。</p> <p>3 1年次における原級留置が減少した。</p> <p>(課題)</p> <p>1 個々の生徒へのきめ細かな指導を行う上での校内体制の充実</p> <p>2 生徒への「公共性」を身につけさせる効果的な指導</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教育内容の精選・教材の創意工夫を図り、より丁寧な「わかる」授業を行う。 ・ 検定試験や資格取得への積極的な参加を促す。 ・ 生徒理解を深めるため、カウンセリングマインドに基づいた個人面談・対話等を重視する。 ・ 規範意識を高める生活指導を行う。 ・ 生徒の参加意欲を高める学校行事・生徒会活動を工夫する。 ・ 部活動の活性化を図る。 ・ 家庭訪問等により保護者との連携を密にする。 ・ さまざまな機会を通じて情報提供を行うなど地域との連携を図る。

評価領域	重点目標（取組の重点課題）	具体的方策	評価		成果と課題
きめ細かな学習指導の充実	基礎・基本を習得させる「わかる」授業の工夫	基礎的・基本的な問題演習に多く取り組ませ、反復することにより基礎学力の定着を図る。	B	B C	<ul style="list-style-type: none"> ・演習プリントの活用等により、基礎・基本を繰り返し指導した。今後一層の工夫が必要である。 ・校内漢字テストに意欲的に取り組む生徒もみられ、日常授業にいかに関心・意欲を高めるかが課題である。 ・生徒主体の美化清掃は大掃除のみであり、他にも清掃活動時間を設け、生徒自らきれいな学習環境をつくる指導が必要である。 ・ICT機器を効果的に活用できた場面はあったが、さらなる活用が必要である。
		教科書を読むことを大切に、段階的に学習する。	C		
		視聴覚教材等の活用により授業への関心・意欲を高める。	B		
		身近な「話題」を教材化し生徒の学習意欲を高める。	C		
	検定試験や資格取得に向けた学習	漢字検定・英語検定などの資格取得に向けた学習環境を整え、チャレンジさせる。	C		
	授業に集中できる学習環境の整備	教室の美化・清掃に努め、授業規律を確保し、生徒が授業に集中して取り組める環境を作る。	B		
	ICT機器の活用	プロジェクター等を使った視覚学習を推進する。	C		
コミュニケーションを大切に生徒指導	集団生活におけるマナーの向上	ゴミのポイ捨て等、校内での日常生活におけるマナーの向上を図る。	C	C	<ul style="list-style-type: none"> ・二足制は生徒への呼びかけにより一歩前進した。今後定着に向けた指導が必要である。 ・給食指導だけでなく、食生活全般の改善に向けた指導が課題である。
		校舎内の完全二足制の定着を図る。	C		
	食育の指導	日々の食事の大切さを教え、給食の喫食率を上げる。	C		

評価領域	重点目標（取組の重点課題）	具体的方策	評価		成果と課題	
個性を尊重した教育活動	個人面談・対話の重視	生徒理解を深めるため、カウンセリングマインドに基づいた個人面談・対話等を重視する。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・面談週間等により、積極的に個々の生徒とコミュニケーションをとることができた。 ・欠席、遅刻等の連絡は迅速に対応したが、原留・中退防止には至らなかった。 ・部活動への参加意欲を高める効果的な指導が必要である。 ・トータルサポートセンターと連携することができた。さらなる継続が必要である。 ・図書室の効果的な活用について検討する必要がある。 	
		生徒の日々の状況を把握し、原級留置・中途退学につながる欠席・欠課・遅刻を防止する。	C			
		進路面談を効果的に実施し、正社員就職や希望する進学につなげる。	B			
部活動・生徒会活動等の活性化	生徒の参加意欲を高める学校行事・生徒会活動を工夫するとともに部活動の活性化を図る。	C				
関係機関との連携	関係機関等と連携し、個に応じた支援体制を充実させる	B				
信頼される学校づくり	家庭・地域との連携	家庭訪問等により、保護者との連携を密にする。	B	B		<ul style="list-style-type: none"> ・保護者との連携は一定図ることができた。さらに積極的な家庭訪問等による連携が必要である。 ・進路コーナーのより一層の充実が必要である。 ・地域新聞等による行事紹介、「うきしま」「渦潮」発行、中学生の授業見学等を行った。
		さまざまな機会を通じて情報提供を行うなど広報活動を活発に行う。	B			
	中学校との連携	中学校との連携を密にし、双方向の情報交換を行う。	B			
ホームページの更新	ホームページの更新をタイムリーに行い、適切な情報を発信する。	C				
次年度に向けた改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 上履きの見直し、校時表の見直し等による規律ある生活習慣の育成 ・ 学校で学ぶことの意義を伝える等、生徒が主体的に授業・学校行事等に参加する態度の育成 ・ 関係機関との連携による迅速な生徒指導の展開 ・ 家庭訪問等によるきめ細かな保護者との連携 ・ 改定教務内規の適切な運用による充実した教育活動の展開 ・ シラバス、年間学習指導計画を効果的に活用した「わかる授業」の構築 ・ 広報活動、学校開放の促進による「開かれた学校づくり」の進展 ・ 関係機関との連携による特別支援教育等、「個に応じたきめ細かな指導」の進展 ・ 教職員理解、生徒理解、保護者理解による教育活動の一層の充実 					

A：十分に達成できた B：ある程度達成できた C：あまり達成できなかった D：まったく達成できなかった